

時制といった基礎的なことを何周にもわたって繰り返し確認します。英語という言語の構造を徹底的に頭に叩き込んだことで、英語の「揺るぎない基礎」が身につきました。それさえあれば、語彙などは後からいくらでも必要に応じて追加できる「土台」のようなものです。

この基礎があったおかげで、数学オリンピックでは海外の選手たちと臆することなく会話や議論を交わすことができましたし、MITに入學してからも、専門用語などは別として、英語自体で苦勞することはほとんどありませんでした。

——平岡塾では英語によるアウトプット力向上の機会はどれ



MIT入学時の集合写真

くらいあるのですか。

平岡塾には週1回通い、3時間の授業を受けましたが、毎回30分間は、ネイティブ講師による「スピーキング」の時間があります。グループで英会話の表現を練習したり、ネイティブの先生に発音やイントネーションをチェックしてもらったりして、英語独特の抑揚のつけ方などを学ぶことができました。文法に加えて、こうしたアウトプットの時間を通じて、「言いよんどてもいいんだ」「完璧な発音でなくてもいいんだ」と気付いたことで、海外の人とも壁を感じることもなく、英語でコミュニケーションが取れるようになったのだと思います。

ネイティブより詳しい文法に絶対的な自信

——平岡塾で学んだことで、いま一番役立っていることは何ですか。

英語に対して「ネイティブではないから……」といった引け目を全く感じなくなったことです。文法に関しては何年間も繰り返し勉強しているの、絶対的な自信があります。文法はネイティブよりも間違いなく正しいという自信がありますし、どんなに難しい英文でも読めるという自信もあります。平岡塾で学んだことは、僕の英語の絶対的な支えになっています。

英語を学ぶ目的は人によって様々だと思いますし、平岡塾でも高3の後半になれば、医学部受験者用に専門用語を補てんしたり、理系志望者向けにサイエンスティフィックスライティングに重点をおいたりしています。しかし、そうした目的別の英語に取り組めるのも、文法を中心とした基礎がしっかりできているからだと思います。平岡塾では英語の表面をなぞるだけでなく、単語のニュアンスなど深いところまで踏み込んだ解説もしています。どの講師からも「英語への愛」を感じますし、様々なエピソードを交えながら、英語という言語の魅力や広がりなどを味わうことができます。そうしたことが微妙なニュアンスの理解につながっており、それが磐石な英語力を形作ってくれたのだと思います。

——英語上達の秘訣があれば教えてください。

どんなことでも基礎は大切で、英語の場合は文法の知識は間違いなく必要だと思います。ただし、英語を上達させるにはコミュニケーションの場面も大切です。僕は数学オリンピックを通して海外の人と交流する機会が得られましたが、ほかにも国際的なキャンプに参加するとか、海外の人たちが集う場に参加するとか、いろいろな方法があります。自分が身につけた英語を、パッ

クグラウンドが全然違う人たちとのコミュニケーションに使ってみることで、英語は上達するのではないかと思っています。

大学で様々な英語に触れるなかで、いわゆるネイティブのような発音を意識しすぎないようになりました。正しい発音などなく、母語の違いによる英語のなまりも、その母語の人たちにとっては正しい発音なのです。自分も普段から、相手にきちんと言いたいことが伝わる英語を心がけるようにしています。

知的関心赴くままに中高生は挑戦をしよう

——MITでの生活や、将来の抱負について聞かせてください。

入学当初は寮生活で、同じフロアに同級生や先輩たちがいて面白いやっているのがとても楽しかったのですが、新型コロナウイルスの影響で、現在は大学の近くに場所を借りて住んでいます。数学専攻ですが、物理、化学、生物などの授業も必修で、専門用語の多い生物の授業などは、最初は英語が聞き取れないこともありましたが、そんなときは、オフィスアワーに質問にいくなどしてクリアするようにしていました。また現在は教授のもとで数学の研究も行っています。研究を進めるなかで教授や他の学生たちと議論をする機会

2013年から中高6年間平岡塾在籍
米マサチューセッツ工科大学 (MIT)
数学専攻 3年次在籍

清原 大慈 氏 (きよはら だいち)

筑波大学附属駒場中学校・高等学校卒。高校在学中、国際数学オリンピックの第58回ブラジル大会(2017年)で銅メダル、第59回ルーマニア大会(2018年)で銀メダルを受賞。2019年春、東京大学理科I類に合格後、マサチューセッツ工科大学に進学。

世界で究める好きなこと 背中を押すのは英語の「揺るぎない基礎」

高2で銅メダル、高3で銀メダル。清原大慈氏は国際数学オリンピックの日本代表として大会に出場し、輝かしい成績を収めた。世界各国の参加者との交流が刺激となり、米国の名門マサチューセッツ工科大学(MIT)に進学した。3年次からは数学と物理の複数分野専攻「ダブルメジャー」にも挑戦している。中高時代のどのような学びが海外へ飛躍する力につながっているのか聞いた。



MITの寮

「解く喜び」が好成績に 数学オリンピックの世界

——数学への興味はいつごろから芽生えましたか。

小学生のときからパズルが好きで、単なる計算ではなく、頭をひねることが求められる難しい問題を解いてワクワクしたことを覚えています。筑波大学附属駒場中学校に進学し、算数が数学に切り替わるタイミングで数学の世界にのめり込んでいきました。転機は、中1の終わりがごろに読んだ数学の専門書です。整数の話で抽象的すぎてほとんど理解できなかったのですが、わからないところに強く引かれたのです。この感覚は今も変わっていません。

——数学オリンピックに参加するようになったのはなぜですか。

数学の世界をもっと知りたいと、中2から校内の数学科学研究会に入りました。先輩に数学オリンピック日本代表がいたので、ゼミで数学の抽象的な話題を議論したり、数学オリンピックの夏季セミナーに参加したりするうちに、数学オリンピックにも挑戦するようになりました。対策に終始しているうちは、成績は芳しくありませんでした。わからない問題を解くこと自体が楽しくなり、趣味のように数学の問題に接することができて初めて、大会でも好成績を残せ

るようになりました。

——進学先としてMITを選んだ理由を教えてください。

当初は日本の大学しか頭にありませんでした。しかし、リオデジャネイロで行われた数学オリンピック国際大会に高2で参加し、世界中の参加者と交流したときに視野が広がりました。多くが米国やカナダの大学への進学を志望し、中でも圧倒的にMIT志望者が多かったことから、彼らと一緒に勉強してみたいとMITを目標にすることにしました。米国の大学進学には、TOEFLやSATなどの受験、英文エッセーや3通の推薦状の提出など、受験準備は数カ月にものぼり、スケジュール管理がとても大変です。その上、日本の大学も併願したため、かなりハードな日々でした。併願を目指すなら、相当な心構えで臨む必要があると思います。

英語の議論に不安なし 言語構造叩き込む

——海外大学で学ぶにあたり、英語に不安はありませんでしたか。

英語は勉強した方がいいと思っていました。3歳上の兄が平岡塾に通っていたこともあり、中1から自然な流れで平岡塾に通うようになりました。平岡塾で一番重視されるのは英文法です。特に文の構造、動詞の活用、



文部科学省表彰訪問時



大会当日の会場の様子 ークルージュ・ナボカにてー



開会式終了後、インドネシアの選手団との記念写真